

「神経変性疾患における網羅定量プロテオミクス解析」 に関する情報公開

当センターでは下記の研究を実施します。この研究の研究対象者に該当すると思われる方のご遺族で、本研究に協力されたくないと思われた場合には、問い合わせ担当者までご連絡ください。また、該当すると思われる方で、研究内容についてよく知りたいと思われる方は、お問い合わせください。研究の守秘義務および個人情報の保護に反しない範囲で出来る限りご回答させていただきます。研究に参加されない場合でも不利益な扱いを受けることはございません。また、本研究により個人を特定できる情報が外部に出ることはございません。

●研究の名称

神経変性疾患における網羅定量プロテオミクス解析

●研究の対象

2001年7月以降に病理解剖され東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方の内、病理診断によりアルツハイマー病、レビー小体病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症と診断された方および顕著な脳変性疾患なしと診断された方。

●研究の期間

倫理委員会承認後から2026年5月まで

●研究の目的と概要

本研究では、各種の神経変性疾患の患者脳において生理活性分子の動態を網羅的に解析することにより、機能を喪失している分子を見出します、疾患発症を生じる病態メカニズムを解明します。

神経変性疾患の患者の脳検体を用いて、生化学的に分子機能を追求しつつ網羅的にプロテオミクス解析を実施することにより、神経変性疾患で分子機能を喪失する疾患特異的タンパク質を新規に同定し、疾患発症に至る分子メカニズムを明らかにします。

●研究の方法

生化学的手法を用いて脳をいろいろな画分に分け、質量分析システムによりタンパク質組成および元素組成の分析を行う。これにより、脳組織の構成分子群をプロファイルする。異なる病態機序を示す疾患群同士、あるいは健常群との間でプロファイルを比較することで、神経変性疾患における共通分子機構、特異的分子機構を解明する。

凍結脳を生化学的に分画し質量分析システムにより解析し、タンパク質組成および元素組成分析を行うことにより、脳組織の構成分子群をプロファイルする。また組織学的解析を行い、各疾患脳組織の病態を明らかにする。異なる病態機序を示す疾患群間、および健常群との間で分子プロファイルを比較することにより、神経変性疾患における共通分子機構、特異的分子機構を解明する。

●研究に使用する試料・情報

アルツハイマー病患者と健常高齢者各 5 例の凍結脳および脳パラフィン切片およびそれに付随する情報（診断名、年齢、性別、身体所見（認知機能検査結果）、病理学的解析結果、死後時間など）

●研究組織

東京都健康長寿医療センター 神経病理／高齢者ブレインバンク 齊藤祐子
村山繁雄
独協医科大学 先端医科学研究センター 小川覚之（主たる研究者）
東京薬科大学 梅村知也

●問い合わせ先

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号
東京都健康長寿医療センター
高齢者ブレインバンク/神経病理 齊藤祐子（研究責任者）
電話 03-3964-3241 内線 4419（平日 9:00~17:00）